



BUILDING COMMUNITIES  
BRIDGING CONTINENTS  
地域を育み、大陸をつなぐ

Ri2010~2011 Theme

# 御坊東ロータリークラブ

since 1996.2.14



## Club Weekly Britain

例会 水曜日18時30分 御坊御坊商工会館3F  
 事務局 〒644-0002 和歌山県御坊市藪350-28(御坊商工会館3F)  
 連絡先 TEL 0738-23-2334 FAX 0738-22-1234  
 E-Mail gobocast-rc@naxnet.or.jp

会長 尾崎達哉  
 副会長 雑賀鈴夫  
 幹事 森本弘之

### 四つのテスト(Four way Test)

- 言動はこれに照らしてから
- (1)真実かどうか
  - (2)みんなに公平か
  - (3)好意と友情を深めるか
  - (4)みんなのためになるかどうか

例会 水曜日18時30分 御坊御坊商工会館3F  
 事務局 〒644-0002 和歌山県御坊市藪350-28(御坊商工会館3F)  
 連絡先 TEL 0738-23-2334 FAX 0738-22-1234  
 E-Mail gobocast-rc@naxnet.or.jp

☆司会(講師紹介) 例会活動委員 森下常一 君



### 会長挨拶

有田 2000RC 会長 梅本茂喜 君



会長 尾崎達哉 君 ご挨拶

本日は貴クラブ 500 回記念例会にお招き、お誘い頂きありがとうございます。  
 クラブを代表してお礼申し上げます。



さて、500 回を記念する例会ではありますが、これは単なる通過点で、次は既に 501 回が瞬間にやってきます。  
 休むことなく無情に時は過ぎて行きます。我々は同じ時間を共に生きる者同士として又ロータリークラブを通じ知り合った仲間として、この出合を大切にしていきたいと感じるものであります。  
 貴クラブには新人さんがお二人と言う事ですが、このお仲間も末永くご一緒頂けたらと願うものであります。  
 例会に参加し、その知り得た事を地域に又職場で自己の感覚判断を交え、活かしていければと思っています。  
 私達は今期15周年を迎えます。お互いのクラブがより良い方向を目指し、切磋琢磨して行ければと感じています。

### 本日のプログラム

#### 記念講演

「ロータリーとは成徳達材の道場」

講師 第 2640 地区パストガバナー

成川守彦 先生 (有田RC)

徳を高め、大成させる。これを成徳(せいとく)という。  
 能力を錬磨し、上達させる。これを達材(たっさい)という。  
 人は何のために学ぶのか。安岡正篤師は言っている。  
 学は己の為にす。

己を為(おさ)むるは安心立命(あんしんりつめい)を旨とす  
 志は経世済民に存す。

志を遂ぐるは学に依る。

学に依って徳を成し材を達す。

成徳(せいとく)達材(たっさい)を立命とす。

「自分を創るのは、利己のためではない。世のため人のために 自分を役立てるためである。」

『自分を育てるのは自分』

人間は 五千通りの可能性を持って生まれてくる。死刑囚になる可能性も泥棒になる可能性もある。その五千通りの可能性から、どんな自分を取り出していかか。

「自分は 自分の 主人公、世界でただひとりの自分を創っていく責任者」

生も一度きり 死も一度きり 一度きりの人生だから、一年草のように独自の花を咲かせよう (坂村真民先生の詩)



<ロータリーの魅力>

①インドのポリオー斉投与

②2640 地区 WCS プロジェクト:ネパールのバクタプル市に「岩村記念病院建設」

最も多く出席する者最も多く報われる

ロータリーの魅力とは、知らず知らずのうちに他人に対する思いやりの心、助け合いの心を持ち、相手の喜びや悲しみのわかる人間に改良されていくことである。

ロータリーの楽しみとは、1 つは友達の輪が広がること、2 つは人様のお役に立つ喜び、3 つは自分の人間性の成長。

「職業は、社会に奉仕する手段である」

<ロータリーでいう職業奉仕>

何もかも機械がしてくれる世の中になり 一番大事な心の働きの鈍ってしまった。善悪の判断ができない人間が増えてきた特に今の日本がそうである

野の鳥に聴け 野の花に聴け  
原生林のブナに聴け

近江商人の「売り手よし、買い手よし、世間よし」という「三方よし」の経営理念は、商取引においては、当事者の売り手と買い手だけでなく、その取引が社会全体の幸福につながるものでなければならないという意味。

人間はだれでも、「初めのうちは自分のことしか考えない、他人のことなぞかまっちゃいられない。」という[ Self ]の時代から、次は、「自分のことばかり考えるのは、却って自分のためにもならない。他人と協調する方が却って、自分のためでもある。」ということに気がついて来る[ Fellowship ]の時代に入り、更に「他人と仲よくするだけでは共同社会の進歩はない。寧ろ積極的に他人に奉仕することこそ、世の中を明るく豊かにする所以である。」と気づく[ Service ]の時代に入るものと云われている。

ロータリーも初めは、シカゴの市民生活が、余りにも[ Self ]だけのすさまじいものだったことから、この[ Fellowship ]の段階から始まったが、やがて、それだけでは未だ足りないと感じて、所謂[ Service ]の時代に入って行った。

「ロータリーでいう職業奉仕」というのは、自分の職業に対し「誇り」と「愛情」を持って、その経営には最大級の努力は払うが、その方針は、単なる金儲けばかりを目的とするのではなく、所謂ロータリー精神、奉仕の精神で、或は“The Four-Way Test”の精神というようなものを汲み入れて、企業の道徳的規準を高め、その職業を通じて社会に貢献する。更にこの信条を同業者、或は友人達にも広めることである。

職業奉仕とは、一言で言えば、「自分の毎日やっていることを、”The Four-Way Test”に照らして、やるんだ」

「自分の毎日やっていることを 一生懸命やる、正しくやるんだ。」

「成功」という山に登る時、裏の道を通って山の頂上に登り、その傍ら奉仕をする人がいるかもしれない。或いは、法に触れない範囲であくどい商売をして大儲けし、事業を発展させ、有名になり、社会福祉に寄付をする人もいるかもしれない。しかし、ロータリーはそういう奉仕は望んでいない。

人の価値というものは、結果ではなく、その人生の過程(プロセス)である。

その生涯をどのように生きたかということである。

ロータリーから見たときに 邪道と思われる道を通らずに、ひ

たすら正道である奉仕の道登って 成功という山の頂上に出ること。そこまで完結して初めてロータリーという職業奉仕が出来たことになる。

<終わりに>

我々は、このような素晴らしい職業奉仕を推進してきたロータリーに入会し、成徳達材することによって、よりよき運命、自分の人生を創っていくのである。

「自分を創るのは、利己のためではない。

世のため人のために 自分を役立てるためであります。」

自分を役立てるには、自己の徳を大成し、自己の才能・能力を練磨・向上させていかねばならない。

「自分は 自分の 主人公

世界でただひとりの自分を創っていく責任者」

ロータリアンには、定年も卒業もありません。

ロータリー入会を機に始められた「成徳達材」は、より高い次元へ向って、その内容の質を高めながら、終生続けられなければならないのです。

### 出席報告

出席委員会 細川幸三 君

会員数	欠席者	出席者	免除会員	出席率
15名	5名	10名	0	66.7%
8月25日 の修正出席率			なし	



### ROTARY CLUB SONG

♪ 四つのテスト ♪

### 次回例会のご案内

★9/22 例会は

外来卓話、

日高川町長 玉置俊久氏です。